





**丸船長**  
 ▲ 故國に幽囚さる、一年二箇月、收容された部屋は二萬二千二百卅八號・食量は極めて少量で粗末なり、下關經由神戸に向へり氏は疲れより氣色も見はず、俘虜であつた當時の追憶談をなして曰く「サテ愈々俘虜となつてハーベンブルグの收容所に入局部や脇下に薬を塗つて入浴させる」と僅か五分間に毛がヌックリ抜てしまつた之は、  
**戦線に流行る惡質の病菌が毛に附着して侵入するといふので之を防ぐ手段だと後になつて言ひ聞かされが一般の子女も皆抜いてしまつて居るさうである、私の收容された部屋は二萬二千三百三十八號室其處には四百人許の俘虜が難居して居たが俘虜に支給する食量は一日に麪包百五十瓦、朝は珈琲又はコア晝は人參ニス等の運動器具も貸して呉れるので待遇の案外寛大なことを感いたるが夫でも矢張り營養不良に陥り、馬鈴薯に油を混せた粥を匙に一杯夜は茶一杯と云ふ實に少量で粗末なものだが夫れども營養不良に陥り、馬鈴薯は細められても居たものである市中を歩いて見て居ない、女は停車場でも戻り、男はよく立側して男の不足を補ひ男は四十歳以下十七八歳以上のものは凡て**

**眼鏡に叶つた女士官**  
 ▲ 取越苦勞の忠言もあつて、誤解を虞れて「志を言ふ」の如き所を知らずの話を引いて愈救中には取越苦勞をして忠言を寄せる世軍士官中から士官学校候補生取締役としてゐる少校水野悦子(三十四)を評してゐる。

**労働者に恐慌來る**  
 ▲ 司會の下に「いもせのみちさかに」の軍歌を合唱し盛なる公開は内務當局も色々に腐心して相當の事である

**列車衝突**  
 下關發京都行の上り四十八號乘客列車が午前五時二十分発車が午後十三時四十秒到着するが、運転士、乗客の死傷者、貨物損失は甚だ多く、列車の脱線による死傷者も多數である。この原因として、運転士の過失、乗客の不注意、信号機の故障、車両の故障などが挙げられる。

**眼鏡に叶つた女士官**  
 ▲ 取越苦勞の忠言もあつて、誤解を虞れて「志を言ふ」の如き所を知らずの話を引いて愈救中には取越苦勞をして忠言を寄せる世軍士官中から士官学校候補生取締役としてゐる少校水野悦子(三十四)を評してゐる。

**労働者に恐慌來る**  
 ▲ 司會の下に「いもせのみちさかに」の軍歌を合唱し盛なる公開は内務當局も色々に腐心して相當の事である

**列車衝突**  
 下關發京都行の上り四十八號乘客列車が午後十三時四十秒到着するが、運転士、乗客の死傷者、貨物損失は甚だ多く、列車の脱線による死傷者も多數である。この原因として、運転士の過失、乗客の不注意、信号機の故障、車両の故障などが挙げられる。

a カイゼル自身も國民と同様の食料を取つて士氣を鼓舞するに努めて居るが夫でも矢張り營養不良の聲を聞かないで却て生れたての子供でも通の兵士及び市民でも一日に麵麩二百五十瓦、牛内一箇月百二十磅鶏卵一隻間に定められて居ない、女は停車場でも戻り、男はよく立側して男の不足を補ひ男は四十年代の次で私の妻には何れだけの條件が必要であるかと熟考した結果

b Tem gente de fóra?  
 他所から御客さんが見にますか  
 a Não senhor, só nós dois.  
 イ、唯私共二人で  
 O almoço está prompto. Tudo está na mesa. Faça servir.  
 食事の用意が出来ました。すべて食卓にあります。さあ食べませう  
 b Sinto incomodar-o.  
 御心配掛て御氣の毒ですね  
 a Ao contrario, o senhor me faz honra ao meu almoço.  
 ろれどころであります。却て光榮に存じます  
 Sirva-se a seu gosto, sem cerimonia.  
 何卒お遠慮なく御隨意に御上り下さい  
 b Bebo á sua saude.  
 御健康を祝します  
 a Agradecido.  
 有難う御座います  
 b O senhor me dá um almoço suplendido.  
 大變な御馳走です  
 a Sirva-se desta carne de porco.  
 此の豚肉を召し上りなさい  
 b Aceitarei um pedacinho. Eu já almocei bastante.  
 少々頂きませう。モー充分頂戴しました

## 講義

名詞の級 これは名詞が語尾の變化によりての意味を擴げ又は縮少する働きを言ひ其の働きの度合によりこれを原級・増大級・縮少級に分つ。原級は通常の意味に於て名詞を言ひ表はし。増大級は名詞の通常の意味を擴大にして言ひ表はし。縮少級はこれと反対に縮少して言ひ表はす階級を云ふ。例へば

原級の形	増大級の形	縮少級の形
livro	livrão	livrinho
casa	casão	casinha

増大級及び縮少級の或る場合には増大・縮少を表はす。侮蔑的批評的の意を示すことがある。又縮少級は廢物の形の大小に拘はらず愛撫の意を示すことがある。増大級の語尾は *ão, ona, zarrão, rão, aço, aça, az, orra,* 等にして縮少級の語尾は *inho, ito, oto, ilho, elho, olo, ello* 等なり。

語尾の變化は單純なる母音字にて終る名詞は此の母音字を失ひ大級縮少級の語尾を附加すべく。*ão* で終る語及び強音を有する母音字で終る名詞は縮少級の語尾の前に *z* を加ふ可し。例へば *sofá*(長椅子)→*sotzinho*(小さい長椅子)に於ける如く縮少語尾 *inho* に *z* を加ふるが如し。

子音字にて終る名詞は前記の如く *z* を加ふるを普通とするが如し。子音字にて終る名詞は前記の如く *z* を加ふるを普通とするが如し。

## 第二 形容詞

形容詞は名詞を形容する語にして名詞の持つて居る種々の性状の中或るものを言ひ表はし又は名詞が外部より受ける境遇を示す語である。而して性状を言ひ表はすものを修飾形容詞と言ひ外部の境遇を示すものを指定形容詞と名づけて置かう。前者に属するものは一般の形容語にして例へば *flor branca, casa alta, trem rapido*(急行列車), *água limpa* に於ける如し。後者に属するものは其數少なし。例へば *o, a os, as, este, esta, esse, essa, aquelle, aquella, qual, cujo, que, quanto, meu, seu, nosso, dois, tres, primeiro, segundo, muito, pouco, todo* 等如し。







第十九席 武藏、宮本武左衛門の養子となる  
武藏が彌十郎の槍を遁れて逃げたる  
のは天狗昇飛切の術にござります其  
術で逃げたに依つてこゝだけ武藏の  
負けてござります家<sup>ウム</sup>成程さう  
の御機嫌浅からず家兩人を呼べ  
のれ寝めに預り双眼より涙を流  
し謂我々兄弟素浪人の身を持ち武  
藝の徳あればこり上様目通りを  
許しに相成り有難くもたゞ益を  
されたい宮本は三千石の大身彌十  
郎は素浪人ゆゑに身を下して居り  
ます宮本も彌十郎の非凡の腕に無禮  
の詫をいたす時に三代公武藏に在  
向ひなされ家<sup>ウム</sup>其方只今彌十郎と岸柳を討  
たし居る信濃の國境なる乘鞍ヶ嶽の  
内天狗昇飛切の術で逃れたりと  
浅右衛門が申したが其天狗昇飛切  
術は何れ汝が熟練いたしたるか子  
に話して聞かせい武藏是れを承は  
り武恐れ入り奉りますね望みに  
任せ微臣が艱難のた話を申上げま  
せうとはから宮本武藏御前體に  
て飛騨と信濃の國境なる乘鞍ヶ嶽の  
元吉岡といふ方は長門の萩の城  
山中にて原<sup>ハシマ</sup>原ト傳に從つて天狗昇飛  
山にて信濃の津山にて吉岡兼房に出  
て武藏は是れを見てア、心持が悪  
いと體を開かうとした内に彼の蛇は  
それを討たんと思はず當時飛騨と  
信濃の國境なる乘鞍ヶ嶽に隠遁を  
たてし居る原小太郎勝義入道ト傳  
來た物語に取掛ります。  
元吉岡といふ方は長門の萩の城  
山中にて原<sup>ハシマ</sup>原ト傳に合氣の術を學  
んで居りました、無二齋とは  
足利將軍の御前<sup>ハシマ</sup>に於て十八人の剣法  
者を向ふへ廻し美事打勝ちました  
次男此の吉岡は新見といふ處に住居  
主毛利右馬頭輝元公の御指南番吉岡  
太郎在衛門新見無二齋といふ方の御  
聲から信濃を望んで山越をいたしま  
した然るに寒さはさむし冬の日脚短  
よりも二人ないといふので足利義輝公  
より無二齋といふ名を賜はりました  
かく何といふ咲であるか瓜先上りに

吉岡流の小太刀の先生然るに武藏が登つて来る内日は充分に暮れました  
まだ平馬といつた頃非常に劍術が能く出来る十三歳の時に無二齋が平馬  
出來る時無二齋が平馬のホツコ息を吐いて来つて見るご竹  
武藏が彌十郎の槍を遁れて逃げたる  
のは天狗昇飛切の術にござります其  
術で逃げたに依つてこゝだけ武藏の  
負けてござります家<sup>ウム</sup>成程さう  
の御機嫌浅からず家兩人を呼べ  
のれ寝めに預り双眼より涙を流  
し謂我々兄弟素浪人の身を持ち武  
藝の徳あればこり上様目通りを  
許しに相成り有難くもたゞ益を  
されたい宮本は三千石の大身彌十  
郎は素浪人ゆゑに身を下して居り  
ます宮本も彌十郎の非凡の腕に無禮  
の詫をいたす時に三代公武藏に在  
向ひなされ家<sup>ウム</sup>其方只今彌十郎と岸柳を討  
たし居る信濃の國境なる乘鞍ヶ嶽の  
内天狗昇飛切の術で逃れたりと  
浅右衛門が申したが其天狗昇飛切  
術は何れ汝が熟練いたしたるか子  
に話して聞かせい武藏是れを承は  
り武恐れ入り奉りますね望みに  
任せ微臣が艱難のた話を申上げま  
せうとはから宮本武藏御前體に  
て飛騨と信濃の國境なる乗鞍ヶ嶽の  
元吉岡といふ方は長門の萩の城  
山中にて原<sup>ハシマ</sup>原ト傳に合氣の術を學  
んで居ました、無二齋とは  
足利將軍の御前<sup>ハシマ</sup>に於て十八人の剣法  
者を向ふへ廻し美事打勝ちました  
次男此の吉岡は新見といふ處に住居  
主毛利右馬頭輝元公の御指南番吉岡  
太郎在衛門新見無二齋といふ方の御  
聲から信濃を望んで山越をいたしま  
した然るに寒さはさむし冬の日脚短  
よりも二人ないといふので足利義輝公  
より無二齋といふ名を賜はりました  
かく何といふ咲であるか瓜先上りに

吉岡流の小太刀の先生然るに武藏が登つて来る内日は充分に暮れました  
まだ平馬といつた頃非常に劍術が能く出来る十三歳の時に無二齋が平馬  
出來る時無二齋が平馬のホツコ息を吐いて来つて見るご竹  
武藏が彌十郎の槍を遁れて逃げたる  
のは天狗昇飛切の術にござります其  
術で逃げたに依つてこゝだけ武藏の  
負けてござります家<sup>ウム</sup>成程さう  
の御機嫌浅からず家兩人を呼べ  
のれ寝めに預り双眼より涙を流  
し謂我々兄弟素浪人の身を持ち武  
藝の徳あればこり上様目通りを  
許しに相成り有難くもたゞ益を  
されたい宮本は三千石の大身彌十  
郎は素浪人ゆゑに身を下して居り  
ます宮本も彌十郎の非凡の腕に無禮  
の詫をいたす時に三代公武藏に在  
向ひなされ家<sup>ウム</sup>其方只今彌十郎と岸柳を討  
たし居る信濃の國境なる乗鞍ヶ嶽の  
内天狗昇飛切の術で逃れたりと  
浅右衛門が申したが其天狗昇飛切  
術は何れ汝が熟練いたしたるか子  
に話して聞かせい武藏是れを承は  
り武恐れ入り奉りますね望みに  
任せ微臣が艱難のた話を申上げま  
せうとはから宮本武藏御前體に  
て飛騨と信濃の國境なる乗鞍ヶ嶽の  
元吉岡といふ方は長門の萩の城  
山中にて原<sup>ハシマ</sup>原ト傳に合氣の術を學  
んで居ました、無二齋とは  
足利將軍の御前<sup>ハシマ</sup>に於て十八人の剣法  
者を向ふへ廻し美事打勝ちました  
次男此の吉岡は新見といふ處に住居  
主毛利右馬頭輝元公の御指南番吉岡  
太郎在衛門新見無二齋といふ方の御  
聲から信濃を望んで山越をいたしま  
した然るに寒さはさむし冬の日脚短  
よりも二人ないといふので足利義輝公  
より無二齋といふ名を賜はりました  
かく何といふ咲であるか瓜先上りに

## 告示

今般當館に於て在留日本人土地所有者名簿を作成候に付土地所有者は至急左記の事項を届出相成たら

- 一、原籍姓名  
一、土地の所在地及最近停車場名  
一、土地の面積及買入地價  
一、年賦拂込の者は其拂込の方法及契約の時日并に拂込済金額

## 右告示

在サンパウロ市

帝國總領事館  
Caixa Postal 1167  
S. PAULO.

## 聖波羅土地木材殖民會社

○當社は九百數十家族の各國人土地所有者を有し  
其の中日本人は二百有餘家族にして現在者百家  
族何れも入殖後日尙淺きにも不拘著しき成績を  
肥の地リチフェニ、及ビリギヒの二部分を廉價  
にて且つ其拂込方法を容易にして日本人諸君に  
提供す。

○當社はチエテ、リナフイユの兩河の間七十キロ  
メートルに渡り數万アルケーレスを有する本州  
最大の殖民地にして水質良好、氣候溫和なる膏  
腴の地リチフェニ、及ビリギヒの二部分を廉價  
にて且つ其拂込方法を容易にして日本人諸君に  
提供す。

御用の向きは左記の場所へ御照會ありたし

宮崎八郎

Director-gerente Dr. James Mellor  
Comp. de Terras, Madeiras e Colonização de S. Paulo  
Birigui.  
LINHA NOROESTE.

御用の向きは左記の場所へ御照會ありたし  
宮崎八郎